

2020年度学校評価【西南学院中学校・高等学校】

建学の精神および学校法人西南学院の使命

学校法人西南学院は、「西南よ、キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探究および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人格を育てることを使命とする。

建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」という言葉は、Lで始まる4つの英単語を用いて表され、本校では、チャペル講話をはじめ様々な教育活動においてこの4つのLを取り入れて具体的に実践している。

- ・L i f e（生命）：すべての人命を積極的に尊重すること
- ・L o v e（聖愛）：真の神を礼拝し、他者に奉仕すること
- ・L i g h t（光明）：知なきところに真理の光を掲げること
- ・L i b e r t y（自由）：責任ある自由をもって行動すること

学校法人西南学院のビジョン

- ①人間育成：キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践
- ②教育研究：確かな教育力と新たな知と価値の創造
- ③国際感覚：異文化を受容し、行動できる国際性の修得
- ④地域貢献：進化する福岡とともに歩む学校としての自覚と協働
- ⑤経営基盤：永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

西南学院中学校・高等学校における教育の目標

- ①かけがえのない“L i f e（いのち）”を大切にす
- ②“L o v e（聖愛）”の実践を通して、隣人に仕える
- ③“L i g h t（世の光）”として、平和構築に貢献する
- ④真理を探究し、真の“L i b e r t y（自由）”を得る

西南学院中学校・高等学校における学校評価の進め方と2020年度の重点目標

I o T、A I、ビッグデータ等の先進技術を活用することで、モノやサービスを提供する新しい時代、“S o c i e t y 5. 0”を迎えようとしている。国際化や多様化が進み、情報の高度化が加速する社会にあつて、教育現場においても、国家、地域、年齢、性別、言語等を超えた、多様で普遍的な価値観に対応できる人材の育成が求められている。建学の精神を堅守しつつ、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、平和を創り出す人材育成を継続するとともに、これまでの教育内容を点検し整備を進めることを目指す。

2020年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案		2020年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2020年度の具体的計画内容	担当部署	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
人間育成 ①平和をつくりだす人間教育 ②隣人愛の理解と実践 ③奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成	1	「平和をつくりだす人間教育」「キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践」の反映と浸透	1	中・高	チャペルやミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切にす教育や「人権教育」の充実、また、「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実	人権・「同和」学習の継続的な実施と充実	新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、聴覚特別支援学校との交流活動、ピース・メイキング・プログラムとインターナショナル・デイ・キャンプなどのプログラムに関しては当初の計画通りの実施が困難であるが、人権・「同和」教育特設ホームルームでの講演、視聴覚教材による授業、「いじめ」アンケートの実施と振り返り、月ごとの主題をふまえたチャペル講話の充実化に関しては、確実に実施して継続的な啓発活動を展開する。	宗教部	新型コロナウイルスへの感染拡大のため、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプを中止せざるを得なかったが、人権・「同和」教育特設ホームルームでの授業や講演、「いじめ」アンケートの実施と振り返りについては予定通り実施できた。チャペル講話を通じての啓発に関しても、感染防止に努めながら多彩な講師による講話の提供に努めた。	B	本年度に関しては、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプの実施を見送らざるをえなかった実状があり、評価として正確かつ詳細に検討できる材料を欠いていると判断し、説明は割愛する。
			2	中・高	中学3年沖縄修学旅行や韓国への(からの)旅等の交流プログラムによる平和学習の充実	平和学習の継続と充実	6月末の段階で、沖縄修学旅行の実施方法は検討中であり、「韓国への旅」は実施を見送る状況である。しかし、修学旅行実施を念頭に置きつつ、事前準備としての平和映画鑑賞とテーマを関連させたチャペル講話の実施などを通して、平和学習を継続しつつ、生徒と共に行う事前学習プログラムのさらなる充実を図る。	宗教部	新型コロナウイルスへの感染拡大を受けて、「韓国への旅」や中学沖縄修学旅行を中止せざるを得なかったが、後期ミッションウィークで沖縄や福岡での困窮者生活支援の現場からの問題提起を踏まえた学びの機会を持つことができた。	B	本年度に関しては、「韓国への旅」、中学校修学旅行の実施を見送らざるをえなかった実状があり、評価として正確かつ詳細に検討できる材料を欠いていると判断し、説明は割愛する。
			3	中・高	生徒が主体的に企画・運営するチャペル企画やボランティア活動の充実	生徒が主体的に参加するチャペル活動や奉仕活動の実施と充実	4～5月の「休校期間」には宗教部による毎日の聖句と祈りの課題の配信を通して、生徒たちに祈りの支援を呼びかけた。路上生活者や生活困窮者への支援物資やマスクの提供などの活動を通して、生徒達が主体的に企画するボランティア活動を充実させ積極的な情報収集を行う。	宗教部	感染症拡大の影響を受け、校外での活動は見送らざるを得なかったが、生活困窮の状況にある方々への支援物資収集、震災忘れない募金(共に校内)に多くの生徒が参加し、関係機関への協力を継続することができた。また、生徒が主体的に関わるチャペルの実践という意味では、高等学校での月一回の代議員による司会・祈祷・聖書朗読の担当、ミッションウィークおよびクリスマス礼拝での聖書朗読、祈祷の担当を通して、生徒たちが積極的に礼拝を作り上げる働きに参加した。	A	校外での活動には制限と制約があり実現できなかったプログラムがあったものの、校内での物資収集や募金の取り組みは継続的に展開できた。また、高等学校の各種チャペルでの司会・聖書朗読・祈りの働きへの生徒の意欲的な参加が見られたこと、中学校のチャペルノートの全面改訂が生徒の主体的なチャペル参加に大変に良い刺激となった。
			4	中・高	地域の教会や他のキリスト教主義学校との連携によるプログラム等の充実	外部組織との連携強化によるチャペル等の充実	地域の教会の牧師や他のキリスト教学校の教員等にチャペル講師など協力を依頼する中での関係づくりを努める。2020年度、校外での活動においては新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けざるを得ないが、本校のキリスト教教育の促進に資する内容の写真パネル展等の企画を検討する。なお、本校保護者を対象としたバイブルクラス実施の機会確保に努め、キリスト教活動への理解を求めるとともに連携を広める機会としたい。	宗教部	感染症拡大の影響を受け、チャペルでの講師招聘についても、一部の予定を変更せざるを得なかったが、オンラインの利を生かして、国内各地・海外にある牧師や卒業生のメッセージを聞く希有な機会も得ることができた。写真展については密を防ぐため実施を見送ったが、保護者バイブルクラスは2回の予定が1回にとどまったものの母の会の協力を得て実施することができた。	A	感染症対策として、外部講師にオンラインで講話をしてもらう必然性によって、遠方の方や国外の方に、ある程度頻回にメッセージをご担当いただくことができた。そのことは、生徒には新鮮かつ重要な機会となった。コロナの状況下だからこそ、保護者のためのバイブルクラスを実施することができたことも良かった。

2020年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案	担当部署	2020年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2020年度の具体的計画内容	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
人間育成 ①平和をつくりだす人間教育 ②隣人愛の理解と実践 ③奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成	2	社会の担い手となるサーバントリーダー育成プログラムの充実	5	中・高	生徒に対するサーバントリーダー育成のための教育プログラムの充実	サーバントリーダー育成プログラムの創設・展開	「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。	宗教部	「韓国への旅」をはじめ、校外での街頭募金など生徒がクラス・学年、中高の別を越えて関わり、協力する場面を多く含む活動の実施を見送らざるを得なかった。また生徒が集まること自体が難しい状況の中、具体的な活動を創出することができなかった。	C	感染症対策の中で、各種プログラム実施を見送ったことは苦渋の決断であったが、今までの取り組みと実践を振り返りつつ、今後の展望をイメージするための機会とした。
					モラル・ルールに対する意識の向上	社会ルールの遵守に向けた指導徹底および意識啓発プログラムの充実	昨年度から引き続き、①登校時におけるマナーと自転車交通ルールの指導・徹底、②携帯電話・スマホやSNS利用を中心としたマナー指導・啓発活動の実施の2点に取り組む。②においてはコロナウイルスの影響により家庭でのインターネット利用時間の増加や学校でのICT機器を使った授業の必要性など環境が大きく変化している。社会の現状に合わせ、メディアを利用する生徒たちの意識向上と学校でのルールの見直しを検討する。		登校時におけるマナーと自転車交通ルールの指導・徹底、SNS利用を中心とした携帯電話・スマートフォンのマナー指導と啓発活動を中心に取り組んだ。在宅時の利用機会が増大したことにより、利用環境の変化や生徒の意識向上にも対応した指導を展開した。		A
教育研究 ①一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化	1	入試制度・生徒募集	1	中・高	中長期的展望に立った学校の将来計画の検討	社会情勢や動向に基づく適正な学校運営の実現	運営委員会や中長期計画検討委員会等を中心に、近年の各種入試結果の検証や中高一貫教育体制の課題等を踏まえ、今後の中高全体の将来計画を検討・策定する。	総務部	運営委員会において、過年度各種入試結果の分析と将来の展望、特にコロナ対策に関する検討を行い、2021年度入試に望んだ。中学入試においては、web出願を開始した。また、ICT教育環境の充実に向けて、中学生全員にタブレット端末の配付を完了し、授業での活用を始めた。さらなる推進を実施するため、2021年度からの校納金改定に踏み切った。将来的な施設設備計画の策定とともに多面的な効果測定を継続する。	A	ICT教育の充実や施設整備計画実現に向けて具体的に一步を踏み出すことができた。校納金の改定により、2021年度以降財政面での超中期的な基盤を整えることができた。中高入試に関しては、課題は残るものの2020年度に取り組むべき課題を実践することができた。
					入試制度(中学・専願・前期・帰国生等の入試制度、入試科目、出題形式、入試日程等)の検討	教育の充実に向けた入試制度の確立と実施	中学入試においては、近年の入試動向や教育課程の変更を踏まえた入試制度改革案を策定する。また受験生の出願時の利便性を向上させるため、インターネット出願の導入を図る。高校入試においては、専願入試、前期入試ともに各教科の学力を複数の指標で判断できる制度導入を検討する。また、今後の課題として帰国生入試での試験科目の取り扱いや各種入試の募集人数等についても検討する。		中学入試では、受験生に対する出願時の利便性向上を目的として、インターネット経由でのweb出願システムを新たに導入した。高校入試では、近年の受験動向を勘案したうえで、募集定員や各種出願資格等の見直しに着手している。		A

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案	担当部署	2020年度事業報告案												
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2020年度の具体的計画内容	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由									
教育研究 ①一人ひとりの個性を引き出す 保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育 機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献 することを目指した研究機能の 充実・強化	1	入試制度・生徒募集	3	高のみ	西南学院大学推薦入試制度の見直しと検討	高大接続の充実を含む西南学院大学推薦入試の実施	進路指導部	進路指導部を中心に西南学院大学推薦入試制度における学部学科ごとの推薦人数や出願条件等について検証する。その内容を大学学部長等との懇談会において協議し、高大接続の観点からお互いにとってより有効な制度となる方向性を見出す。	大学入学共通テストの実施や、新型コロナウイルス禍が受験動向に強く影響し、西南学院大学推薦入試への出願希望者数が過去最高水準に達したことを踏まえ、次年度以降、何らかの形で学部・学科ごとの推薦人数をはじめ、入試制度の弾力的な運用を要望することとした。	B	西南学院大学推薦入試制度は、本校側の要望だけで推薦人数などの変更ができるものではない。本学院が建学の精神を守り、一貫したキリスト教理念の下で生徒・学生の継続的な教育の充実を図るため、今後一層の高大連携を進めたいが、現在は要望を伝えた段階である。次年度以降、さらに協議を深めたい。									
	2	カリキュラム・教科教育	4	中・高	中高一貫教育体制の検証と改善	中高一貫教育の特色を活かした学校運営の確立	運営委員会や職員会議を中心に中高一貫教育の現状と課題について、生徒の人的成長や学業成績等、幅広い面から確認の上で必要な改善に向けた今後の方針を協議・検討し、実施する。	教務部	中学・高校それぞれの成績資料に基づき現状を把握するとともに、各教科会議体で学習面の指導のあり方について、協議を継続している。	B	運営委員会や職員会議において、それぞれの成績資料に基づいた現状の把握方法は、教務部からの報告にとどまっておらず、協議するには至っていない。また、成績資料に基づいた中高一貫教育の現状と課題について、各教科会議で学習面の指導のあり方を協議する依頼はしていない。									
												5	中・高	教科教育の充実	生徒の学力向上と幅広い進路保障の確立	各教科において学期ごとに授業内容や成果について検証し、様々な課題を共有の上、教育内容の充実に向けた方策を検討する。なお、2020年度においてはカリキュラム検討委員会において新学習指導要領の実施に伴う教育課程・授業時間数表を完成させ、教務部では2021年度からの新入試に向けた調査書の改定を実施する。	教務部	2021年度からの新学習指導要領に適応した新しいカリキュラムを編成した。また、調査書の書式改定への対応とともに、ポートフォリオ活用のあり方について検討した。	C	調査書の書式改定については、2020年度にはまだ文部科学省から通達されておらず、検討していない(2021年7月に予告された)。教務部としては調査書ではなく、指導要録改定の検討を先に進めるべきである。ポートフォリオについては、文部科学省が正式に大学入試に活用することを中止したため、本校での活用も中止した。

2020年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案	担当部署	2020年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2020年度の具体的計画内容	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
教育研究 ①一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化	3	進路指導	7	中・高	キャリア教育(進路指導)体制および手法の見直しと検討	生徒の特性や希望に即したキャリア教育指導体制の確立	進路指導部を中心に中学の進路交流会や卒業生による講演、高校の進路説明会や大学説明会等を継続的に実施し、さらにキャリア教育の充実に向けた今後の基本方針を策定する。	進路指導部	新型コロナウイルスへの感染拡大防止策に伴い、中学では進路交流会を中止し、高校では進路説明会や大学説明会の実施計画変更を余儀なくされ、継続的な実施の観点からはやむを得ず規模を縮小せざるを得ない面が多々あった。	B	高校2年生対象の進路講演会Ⅰ・Ⅱ、中学3年生対象の「先輩の話を聴こう会」がcaろうじて実施できたが、例年、対面形式で実施している多くの大学説明会が、今年度は新型コロナウイルス禍の影響で、一部の大学・学部を除いてほとんどが中止せざるを得なかった。各大学の夏のオープンキャンパスもオンライン化が進み、高校生にはそうした情報を積極的に配信したが、生徒への浸透度は低かった。進路指導部としての情報発信力の強化も今後の課題となった。
			8	高のみ	高大接続および連携の課題に対応した進路指導の充実	高大接続および連携を活用した進路指導の充実	各大学が設ける高大接続や連携の仕組み・制度を検証し、今後の進路指導における活用方策について検討する。	進路指導部	2019年度に引き続き、学校推薦型選抜、総合型選抜等をはじめ、生徒の要望に応じた進学情報の提供や受験指導に努めた。また、例年通り、西南学院大学から入試課や法学部教授を招いて、大学の特色や法学部の最新の取り組みを紹介することができた。	C	新型コロナウイルス禍の影響で、各大学が設ける高大接続・連携プログラムの検証と活用は十分実施できたとはいえない。次年度以降はコロナ禍も落ち着き、多くの大学と連携して生徒の好奇心を喚起するようなプログラムを企画したい。
			9	高のみ	多様化する進路希望者に対する支援制度の確立	進路保障の拡充に向けた制度の確立	2021年度からの新入試以降の受験動向を見据えつつ、引き続き国公立大学や難関私立大学への進学志向、また生徒の特性や希望に応じた進路指導・支援の強化に取り組む。また、海外進学を含めた多様な進学支援に向けた今後の進路指導体制のあり方を検討する。	進路指導部	大学入学共通テストの動向を見据えつつ、国公立大学や難関私立大学への進学需要を把握しながら、生徒の特性や希望に応じた進路指導や支援強化に努めた。特に今年度は、指定校推薦や西南学院大学推薦希望者をはじめとして、学校推薦型選抜や総合型選抜に出願しようとする生徒が非常に多く、一人ひとりの要望に応じた細やかな指導を心掛けた。	A	大学入試制度改革により大学入学共通テストが始まり、調査書の書式も変更となるなど様々な変化への対応に迫られたうえ、新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応により、各大学で入試制度にさらなる変更が加えられた。そうした混乱の中にあっても、例年同様、生徒の特性や希望に応じた進路指導を継続できたことは評価できる。次年度以降は、さらに細やかな進路指導を目指したい。
	4	特別支援	10	中・高	特別支援体制の整備と充実	生徒の状況に応じた教育支援の確立	2020年度に設置された教育支援委員会を中心に現状と課題を検証の上、授業や各種行事をはじめ学校生活における様々な支援方策や成績評価のあり方等を検討するとともに、今後の教育支援体制の強化に向けた具体的方策を策定する。	総務部	特別支援体制の整備に向けて、教育支援委員会を中心に、支援の必要な生徒の把握とその対応について組織的に取り組む制度づくりに努めた。また、2021年度の実施に向けて、要支援生徒の情報共有及び支援体制の充実化を図った。	A	教育支援委員会が発足し、支援の必要な生徒の把握についての制度、また対応について組織的に取り組むための制度が整えられた。

2020年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案	担当部署	2020年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2020年度の具体的な計画内容	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
教育研究 ①一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化	5	総合的な「知」の探究	11	中・高	外部講師による講演会やチャペル講話の充実・強化	幅広い知識の修得による知的好奇心の醸成と精神的成長の促進	生活困窮者支援や平和構築などの社会的問題に取り組む実践者を講師に招き、歴史的・文化的背景を理解しながらグローバルな視点をもって課題解決に向かうための知識の習得と姿勢を養う機会を設ける。	宗教部	後期ミッションウイークにおいて、中学では沖縄から平和を考えることをテーマに神谷武宏先生を、高校では生活困窮者支援の第一人者として活動されている奥田知志先生を迎えて現代社会が抱える問題の理解を深める機会を持つことができた。毎週のチャペル講話においてもいろいろな話題が提供され、社会・他者・自己に対する関心を高める時となった。	A	牧師として具体的なテーマをもって活動を展開される講師による講話を通して、生徒たちは聖書のメッセージ、現代の諸課題、自分たちの学びの意義、将来への備えなどを多角的に学び取ることができた。講師のメッセージへの豊かな反応を示してくれる生徒もいた。
			12	中・高	現図書館の利用促進と情報・学習資料センターの機能をもつ新図書館構想の実現	生徒が自主的に利用しやすい環境の確立	図書館を含む「情報・学習資料センター」Active Learning, Library and Selfstudy (A.L.L.S.)として、現在の1階自習スペースや視聴覚教室のリノベーションを行う。それに向けた具体的な建築案の作成、業者の選定などを行う。	図書部	「情報・学習資料センター」構想の一環として、1階視聴覚教室、社会科教室を含めたアトリウム東側リニューアルについて、業者との具体的なプラン策定に着手した。	B	校内では感染症対策に伴い優先すべき様々な課題があり、それに比べると緊急性の少ない事案は具体的に進めることが困難であった。当初予定より半年程度計画は遅れている。
	6	教員の資質向上	13	中・高	研究授業の積極的展開	教員のスキルアップに向けた研究授業制度の確立	各教科を中心に研究授業や研修発表を適宜実施し、教科教育の充実を図る。特に自主的な研究発表や勉強会の企画・実施に対する支援のあり方について検討する。また、ICT機器の活用のさらなる推進のために、研修等を実施する。	教務部	全校生徒へタブレット端末が配付されることに伴い、校内全体でICT研修会を数回実施した。また各教科でICT機器を活用した授業展開のあり方について情報交換し、具体的に効果的な利用について学ぶ機会を設けた。	B	ICT研修会は、ICT教育委員会の主催によって2回実施されたが、各教科において、ICT機器の活用した授業展開のあり方についての情報交換は実施していない。
			14	中・高	研修制度の見直しと検討	教員研修制度によるスキルアップの促進	教育内容の急激な変化に対応すべく研修制度の実施状況を検証し、改善に向けた方策や、勤続20年目や30年目の学び直しをも見据えた新たな研修制度の創設を検討する。	総務部	教育の内容の変化に対応するための研修制度のあり方についてよりも、コロナ禍によるオンライン授業等、ICT関連の実際の研修が急務であったため、ICT教育委員会を中心にしてICT機器の活用法を中心に研修がなされた。研修制度の実施状況の把握は実施した。	B	研修制度の実施状況は把握できたものの、研修制度の見直しについては検討できていない。
	7	教育施設の整備	15	中・高	実験室や視聴覚教室、課外活動施設、職員室等の校内施設・設備の充実	設備の充実による教育内容および効果の向上	運営委員会において学校教育の充実・強化に向けた施設設備の整備に取り組みながら、さらに中長期の整備計画を策定する。事務室においては、財務部(施設課・経理課)と連携を図り、計画実現に向けた予算措置を含めた具体的な事務作業を執り行う。	総務部 事務室	情報・学習資料センターの設置に伴う施設設備のあり方や利用方法の検討をはじめ、グラウンド施設(人工芝敷設)や実験室、視聴覚教室、課外活動施設、職員室等の整備充実に向けた協議に着手した。	A	情報・学習資料センターの設置に伴う施設設備のあり方や利用方法の検討を目的とした中長期整備計画が、全体職員会議で承認された。今後の検討については図書部長(情報・学習資料センター長)、関係教員及び事務職員を構成員とするワーキングチームを設置して、検討を行った。

2020年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案	担当部署	2020年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2020年度の具体的計画内容	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
国際感覚 ①グローバル社会の担い手の育成 ②異文化理解と外国語教育の充実 ③キャンパスの国際化の推進	1	グローバル社会の担い手の育成	1	中・高	多様性を認め合う共生社会の形成に向けた国際交流プログラム(海外研修・留学生受入を含む)の充実	国際交流の積極的な展開によるグローバル教育の充実	運営委員会や国際交流委員会を中心に現状の課題を検証し、異文化理解とともに共生や平和の教育、現地研修を含めたプログラムの見直し等、グローバル社会に対応する教育の中長期計画策定について総合的に検討する。特に2020年度においては、中学の海外研修プログラムの再開、また中高におけるターム留学制度の開始に着手する。	総務部 教務部	新型コロナウイルスへの感染拡大防止策に伴い、高校訪豪研修やピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプを中止せざるを得なかった一方で、中学での海外研修プログラムの再開や、中学・高校におけるターム留学制度についてのルール作りについて検討した。	A	感染不安がある中、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプ実施の可能性を探り、実施の計画までは行うことができた。また、2016年度からの進級留学制度に加えて、ターム留学制度について研究し、ルール作りについて検討した。
			2	中・高	帰国生への対応(募集拡大、教学支援の検討)	帰国生受入制度の確立	運営委員会や関係する部署において帰国生対応に関する地域社会からの要請や受入による教育的効果を確認し、今後のあり方や体制整備に向けた検討に着手する。	総務部 教務部	2019年度に引き続き、帰国生を対象とする入試制度の改革、入学後の生活指導や進路指導に関する全校的な支援体制のあり方についての検討を重ねた。	B	2021年度からの帰国生徒入試においては、「保護者の帰国に伴って…」という条件を削除し、在留証明書などの出願書類も減らすことで、該当する生徒も増えて、問い合わせも増加傾向にある。入学後の生活指導や進路指導に関する全校的な支援体制のあり方についての検討はなされていない。
			3	高のみ	卒業後の海外大学進学への支援体制の構築	海外進学支援体制の確立	進路指導部を中心に、海外進学を希望する生徒のニーズについて把握する。進路・進学指導については、国際交流委員会を通じて専門業者との連携について検討する。	進路指導部	海外の大学への進学希望者を対象とした支援のあり方について、専門業者との連携も視野に入れながら、現状やニーズを把握するとともに、担当スタッフ確保等の課題への対応策も含めて、協議を継続した。	B	海外大学進学希望者への支援体制の構築は急務であるが、今年度はこれを充実させることができなかった。新型コロナウイルス禍にあって国際的な進学を志向する生徒も減少したが、事態が収束すればまた希望者が増えるであろうことは容易に想像できる。次年度は、進路指導部に担当の係を設けることから始めたい。
	2	英語教育のさらなる強化と拡充	4	中・高	全生徒に対する英語力の全般的な向上	英語を活用したコミュニケーション能力の向上	英語科を中心にオンライン英会話授業の運用とその効果を検証し、今後の実施計画を策定する。また、語学力向上のための様々な方策の調査や検討も併せて行う。	教務部	オンライン英会話授業の導入により、リスニング及びスピーキング技能の獲得に向け、運用面での見直しを行うとともに、英語4技能の向上度合いに応じた効果測定を継続している。	B	運用面での見直しについての進展は見られていない。向上度合いに応じた効果測定のあり方について、引き続き検討する。
			5	中・高	GTEC等の英語力の学外指標の導入	大学入試対策に合わせた英語力の向上	英語成績提供システムの大学入試への導入は、2025年度入試に延期されたが、多様化する大学入試に対応するため、引き続き生徒の英語4技能をはかる民間検定試験を活用する。また、生徒に負担がかからず能力を發揮しやすい受検環境の確保に向け、業者等との調整を図る。また、GTECに限らず他の民間検定試験についても情報収集と生徒への情報提供を行う。	教務部 進路指導部	GTECをはじめ外部検定試験の実施情報の収集と生徒への提供、多様化する大学入試制度への対応に向けた制度の検証、受検環境の確保を目的とした業者との折衝を行った。	B	新型コロナウイルス禍にあってかろうじてGTECは実施できたものの、その他の民間検定試験の活用には至らなかった。英語科でのオンライン英会話が学年ごとに月1回程度実施されているが、英語4技能をさらに伸ばすための検討や、取り組みの検証については今後の課題である。

2020年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案		2020年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2020年度の具体的計画内容	担当部署	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
地域貢献 ①地域社会との協働 ②国際交流都市福岡への貢献 ③地域に開かれ、地域に貢献する空間づくり	1	地域における貢献活動	1	中・高	ボランティア活動やイベント等の地域貢献活動・地域福祉活動の充実	地域貢献活動の充実に 向けた組織と 制度の整備	重症心身障害児施設や老健施設でのボランティアについては新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から訪問でのプログラムを見送り、カードの贈呈や生徒の演奏を収めたビデオレターなど代替の方法を検討し、これまでの交流が途絶えぬよう努める。地域住民向けコミュニティクリスマスの実施、生徒による選挙公報活動、地下鉄乗車マナーアップ活動、継続的な被災地支援活動についても状況を見ながら判断・実施する。	宗教部 総務部 生徒指導部	新型コロナウイルスへの感染拡大防止策に伴い、施設訪問ボランティアや地域住民対象のコミュニティクリスマスの実施を中止せざるを得なかったが、代替活動としてカードの贈呈やビデオレターの編集、オンラインミーティングの開催等により、交流の維持に努めた。また、地下鉄乗車マナーアップ活動に関しては、今年度は中止することとなった。	A	地下鉄乗車マナーアップ活動については中止となったが、公共の交通機関を利用する生徒に対する指導に関しては継続して行った。新型コロナウイルス禍でも実施できる取り組みを探して諸団体とのつながりを保てたことは、次年度以降に向けての関心と課題への取り組みが期待できる。
				中・高	災害発生時の避難場所提供等の防災協力体制の充実	地域防災の 充実	防火・防災対策委員会を中心に、生徒・教職員対象の防災計画(マニュアル整備や防災用品整備等)の検討・実施に加え、近隣地域に向けた防災協力体制(防犯、交通安全対策を含む)や具体的内容について審議・検討する。	総務部 事務室	校内においては教職員用防災マニュアル、備蓄物品・防災用品等に関して教職員への周知に努めたが、近隣地域に向けた具体的な防災協力体制構築の審議・検討には至っていない。	B	防災協力体制の構築に向け、本校教職員が百道浜校区の交通安全推進委員会や青少年育成協議会に出席することにより、近隣地域住民との連携強化に努めている。
	2	地域住民との連携	3	中・高	百道浜自治協議会との連携強化	連携のための組織および制度整備による地域との関係性の向上	校長・副校長・教頭・事務長を中心に連携に向けた組織づくりのための方策をまとめ、自治協議会関係者との懇談の機会を設ける。	総務部	百道浜自治協議会関係者や学校評価外部評価委員との意見交換を通じて、本校との地域連携のあり方について検討すべき情報を収集した。	A	百道浜自治協議会の組織下にある交通安全推進委員会や青少年育成協議会の会合に出席し、地域との連携を図った。会合を通じて本校の行事や生徒の様子を報告することで、地域住民の理解が得られていることを実感できる。協議会や委員会の諸活動にも積極的に参加、協力している。
経営基盤 ①経営体制の充実・強化 ②健全な財務基盤の確立 ③社会的責任の遂行	1	広報活動	1	中・高	中学校・高等学校全体のプランディング・広報戦略の充実・強化	学校および生徒の取り組みの積極的な社会発信による理解度・認知度の向上	2015年に小改訂を行った学校紹介DVDの大幅リニューアルを計画し2021年度途中からの運用を目指す。ホームページでの運用も視野にいれてDVDではなく、テーマ別に短い動画を20本程度作成する方向で業者選定をおこなう。納品後、修正や動画の追加ができるよう3年程度の保守契約も検討する。新型コロナウイルスの影響で学校説明会の機会が減少しているため、オンライン説明会等の実施についても研究する。本校の教育活動について広く情報を提供し、本校に対する正しい理解と正当な評価を得ることを目指す。	広報部	新型コロナウイルスへの感染拡大防止策に伴い、オープンキャンパスについてもオンライン開催への変更を余儀なくされたが、公式YouTubeチャンネルを開設してキャンパスツアー等の動画をアップロードし補填した。2021年度以降の広報活動に向け、学校紹介動画の業者選定を行った。校内でのチャペルや行事の配信の機会が増えたため、配信方法や機器の研究を進めるとともに広報部に2021年度から配信担当の係を新設した。	A	学校案内動画については、広報部での内容の検討を行い、その方向性にそって業者の選定を実施することができた。オンラインによる説明会等の需要が急激に増加したが、現状の機器で何とか工夫して対応することができた。次年度に向けて配信設備等の予算を組んでいく必要がある。

2020年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2020年度事業計画案	担当部署	2020年度事業報告案								
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2020年度の具体的計画内容	2020年度の具体的実施内容	評価	評価の理由					
経営基盤 ①経営体制の充実・強化 ②健全な財務基盤の確立 ③社会的責任の遂行	2	運営管理体制の強化	2	中・高	危機管理体制(災害対応・施設強化を含む)の充実・強化	危機管理体制および設備・機器の整備による生徒・教職員に対する安全管理の向上	防火・防災委員会を中心に、生徒・教職員対象の防災計画(マニュアル整備や防災用品整備等)の検討・実施を進める。新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、消毒液やマスク等の衛生用品確保に努めるとともに、備蓄物の見直しを図る。	総務部 事務室	新型コロナウイルス禍での感染拡大防止に向けた学校関係者の全校一丸となつての取り組みが奏功し、罹患者の発生や学事スケジュールへの影響を最小限に食い止めた。また、学校施設整備計画の一環として校舎内での自動ドア改修を実施し、校内のバリアフリー化を推進した。	A	新型コロナウイルス禍での感染拡大防止策に関しては、国や県の指針を参考に、本校執行部(校長・副校長・教頭)が保健室、事務室、産業医、保健師、清掃業者、保健所等と連携を図り、組織的かつ迅速な対応をとることができた。保護者も含めて全校的な協力が得られた結果、福岡地区他校の状況と比較しても、感染を最小限に食い止められた。罹患者は発生したものの、校内で感染が拡大することもなかった。					
					3	中・高	校友行政の強化・同窓会との協力関係強化				関係強化のための組織と制度の整備	校長・副校長・教頭・事務長を中心に、関係教員や同窓会関係者や後援会役員との協議の上で実施する。	総務部 事務室	同窓会と生徒との交流活動の促進、学院全体の同窓会組織との連携強化のあり方等についての同窓会関係者との意見交換の機会を設けた。	A	例年と異なり、同窓会評議員会が本校内で複数回開催されたことにより、意見交換の機会が増加した。同窓会からは様々な学校行事への支援も得られた。高校同窓会の総会はオンラインによる開催であったが、学校としても例年以上に協力することができた。
					4	中・高	後援会との協力関係強化(情報提供のさらなる充実、専用ホームページの検討)				関係強化のための組織と制度の整備	校長・副校長・教頭・事務長を中心に、関係教員や同窓会関係者や後援会役員との協議の上で実施する。	総務部 事務室	中学・高校双方の後援会役員との協議を通じて、後援会行事の運営、学校施設設備の整備等についての意見交換を行った。	A	新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言の発令に伴い、後援会役員会や評議員会の実施が延期され、総会は書面による決議となった。母の会研修会やクリスマス祝会時の交流行事も中止され、多方面に影響が生じた。そのような時機にあっても後援会との協議により、多目的ホールの椅子取替や、中学後援会奨学金の引き上げ等、学校への多大な支援を行っていただいた。
	3	教職員に対する健康管理の充実	5	中・高	定期健康診断に基づく保健指導の充実、メンタルヘルス等の対応強化	労働安全衛生法に基づく健康管理制度の確立と運用	衛生委員会を中心に教職員の健康管理の充実に向けた2020年度の計画案を策定し、適宜、職員会議等で報告の上で実施する。また、働き方改革やハラスメント対策等について、総務部(人事課)と連携を図り具体的な対策を実施する。	総務部	新型コロナウイルスへの感染拡大防止に向けた具体策の検討や学校関係者の罹患者に際して、総務部や産業医、保健師らと連携して対応にあたった。働き方改革の推進に向け、将来的な就業規則の改定をも見越しつつ2021年度からの高等学校の早朝からの授業(0限目)廃止に伴う時制変更にも踏み切った。	A	新型コロナウイルス感染症への対応に際して、産業医や保健師、学校薬剤師と連携できたことは評価できる。働き方改革の推進に向け、校務分掌の一部見直しも実施することができた。					